

出雲市集落支援事業が スタートしました

出雲市集落支援員の皆さん

平田（鰐淵）	津戸 和憲
佐田（須佐）	田部 延幸
佐田（窪田）	大谷 昌武
多伎	玉川 恵一
大社（鷓鴣）	藤井 健藏

「出雲市集落支援事業」は、平田地域（鰐淵地区）、佐田地域（須佐地区、窪田地区）、多伎地域、大社地域（鷓鴣地区）の5か所をモデル地区として、今年度から実施します。

市から委嘱を受けた各地区の「集落支援員」が、地区の状況を調査・把握するとともに、集落応援隊の派遣に向けて調査および調整を行います。

一方、「集落応援隊」には、5月末現在で、市内の土木業者など5企業、3団体、7個人の皆さんの登録がありました。

今後、集落からの要請を受け、草刈りや清掃、除雪、祭りの運営などを、集落の皆さんと一緒にを行います。



高齢のため地元住民だけでは手が付けられなかった側溝の土砂が、応援隊の皆さんのご協力により撤去でき、大変感謝している。

名梅自治会の皆さん

名梅自治会の作業に協力していただいた集落応援隊の皆さんは次の方々です。

（株）土井豆組、（株）日野組、嘉本盛信、田中秀和、地元ボランティア、出雲市職員共済会（敬称略）

田部集落支援員

集落応援隊の皆さんのおかげで、引き続き安全かつ安心して生活できるようになった。この地域でがんばって生活していくためにも、今後も皆さんに応援していただきたい。また、応援していただき皆さんとの交流も図っていきたい。

集落応援隊



▼佐田町に住んでおり、この名梅地区が草刈りや側溝清掃を行うことが困難であることは十分承知している。社長を先頭に、社員一同ぜひ地域のために力になりたいと思っている。

▼元気なうちに、地域のために役に立ちたいと思いついた。集落の方に、住んでよかったですと思っただきたい。

▼まずは集落の実態を知ることが必要。今日ここに来るまで、名梅地区の現状を知らなかった。現状を広く知らせることで、応援隊として協力する企業や個人が増えるとうい。

出雲市集落応援隊を募集しています！！

集落応援隊を随時募集しています。詳しくは、市のホームページにも掲載しています。

集落応援隊への応募 自治振興課まで
集落支援事業に関するおたすね

TEL：21-6619 FAX：21-6599

出雲の真のブランド化をめざして

市民一人ひとりが 出雲をもっと好きになるために

～出雲ブランド化推進市民委員会が発足～

皆さんは、自分が住む『出雲』を、自信を持って紹介できますか。自慢できる『出雲』になつていきますか。

私たちの出雲市には、出雲大社をはじめとする全国に誇れる歴史・文化資源や、海・山・川・湖などの自然資源、そして地域に根ざした生活・伝統行事など、全国に誇れるたくさんの方々の地域資源があります。

これらの地域資源を活かし、「出雲に生まれてよかった、住んでよかった」と思える出雲ならではのまちづくりを展開し、『出雲』という全国ブランドの名を活かしながら、市内外に広く発信していく、『出雲の真のブランド化』に向けた取り組みが動き始めました。

出雲の真のブランド化とは

特産品等のブランド化への取り組みは各地で見られますが、『出雲の真のブランド化』は、市民一人ひとりが出雲をもっと好きになり、地域への愛着と誇りを持ち、市外県外の人に、もつと出雲の魅力を知ってもらおう取り組みです。そして、地域全体のクオリティ（品位・品質）を上げ、全ての市民が夢と希望を持てる豊かな出雲市の実現を目指すものです。

みんなで取り組むブランドづくり 「出雲ブランド化推進市民委員会」 が発足

『出雲の真のブランド化』に向けては、市民主体の取り組みと、さまざま

な分野での市民の盛り上がりが必要不可欠です。

このような中、ブランド化に向けた具体的な取り組みを企画・提案し、実践と検証を行う「出雲ブランド化推進市民委員会」が発足しました。6月15日に開催した第1回会議では、24人の委員の皆さんが、出雲への思いをぶつけ合いました。

ブランド化の方向については、市職員有志による「出雲ブランド戦略プロジェクト」が作成したブランド化に向けた基本的な考えをもとに、取り組みの方針や具体的な取り組みについて意見が交わされました。



委員会では、今後、ブランド化に向けた共通認識のもと、具体的な取り組みの検討や実践が行われる予定です。このブランド化の動きが、市民全体の運動にひろがっていくよう、先ずは家庭や地域で身近な地域資源などについての話題づくりなど、出雲をもっと好きになる取り組みを一緒にしていきたいと思います。

委員からの意見

- * 行政に任せるだけでなく、出雲の情報発信に向け、市民自らが動かなければならない。
- * 数年前にUターンしたが、出雲が活力あるまちに変わるよう、力を尽くしたい。
- * ブランド化にはさまざまな方向があり、一つにすることは難しい。
- * キャッチフレーズの公募など、市民へ向けたブランドへの共感づくりが必要。
- * 市民が出雲の素材を共通認識し、情報発信することによって、出雲のファンをつくる必要がある。



出雲のブランド化についてのおたすね

出雲ブランド室 ☎06274